

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

デザイン情報学科
新保韻香准教授



シールの貼ってある資料は貸出不可

美大生におすすめの本、何にしようかと考えていた時に、雑誌『漢聲』の発行人・アートディレクターの黄永松（ホアン・ヨンソン Huang Yongsong）さんの訃報が入ってきました。非常に残念でしたが、雑誌『漢聲』は、ぜひ美大生の皆さんに手にとっていただきたい本なので、黄永松さんに哀悼の意を表するとともに敬意を評し、この機会に紹介させていただきたいと思います。

私が初めて雑誌『漢聲』を目にしたのは、皆さんと同じ美大の学部生だった頃です。デザイン関連の書籍を多く扱う書店で、整然とデザイン系の書籍が並ぶ平台に異色のオーラを放つ本に目を奪われました。それはまるで、地から天に向かい、本柱が立ち上がっているかのごとく平台に積まれていました。どこか土着的で、風合いのある紙を使用した、今まで目にしたことがない大胆なデザイン。とにかくその装丁が衝撃的で、本の中身を見たかったが、綺麗にビニールが掛けられていて見る事ができない。当時の私にとって、中身を見ずに買う勇気のない高額な価格だったので、泣く泣く諦めたのを今でも覚えている。

その後大学院に進み、杉浦康平先生に師事し、杉浦事務所で働くようになり、事務所の本棚にあった沢山の『漢聲』と再会した。そこでやっと手にとり、自由に見る事ができるようになったのです。今思えば、私が初めて書店で『漢聲』を目にした時が、杉浦先生が『漢聲』の日本発売に向けて推薦文を書いた頃と重なっており、私は杉浦事務所で黄永松さんの中国の伝統民間文化を主題とした『漢聲』を深く知ることとなった。

プリントメディアとしての本は、読む行為そのものを体験するだけではなく、紙の表紙や本文用紙の手触り、インキの匂い、ページをめくり読み進める行為まで、五感を刺激するものです。まさに『漢聲』は中国をはじめ、アジア全域の伝統文化や人間のエネルギーをダイレクトに感じ、五感を刺激する本となっています。皆さんもぜひ手にとり、本からアジアの伝統文化を直に感じていただけたらと思います。



『綿綿瓜瓞』（上）図説篇・図録篇（漢聲雑誌 57 期）』

『綿綿瓜瓞』（下）論述篇（漢聲雑誌 58 期）』

著＝靳之林，発行人＝黄永松，
漢聲雑誌社，1993



靳之林教授による綿綿瓜瓞（子孫繁栄）に関する中国の民間芸術を集めた資料集。漢聲雑誌 57 期「図説篇・図録篇」と 58 期「論述篇」の 2 分冊構成。2 分冊をまとめるためのスリップケース（段ボール紙の外函）には、黒と赤の陰陽のシンボル（太極）がくり抜かれ、本文の文字組みも中国民衆のエネルギーを感じる大胆なレイアウトが印象的である。

『淑蘭の切り紙宇宙』展がミキモトホールで開催され、黄永松も来日し、好評を博した。



『美哉漢字』（上）設計巻＋（下）意匠巻 （漢聲雑誌 87・88 期）

発行人＝黄永松，
作＝張道一，英文漢聲出版，1996



漢字文化圏に独自の風貌をもつ漢字「伝統民間美術字」を特集。漢聲雑誌 87・88 期を 1 冊にまとめた構成。声（音）や意味（義）に深くかわり、象形性と抽象化のはざまに姿を変える記号体系の多彩な漢字が満載。文字好き必見の一冊。



『陝北剪紙 黄土高原母親的芸術』 （漢聲雑誌 81-83 期）

発行人＝黄永松，漢聲雑誌社，1995



中国陝西省、陝北高原地方の母から娘へと伝わる民間芸術である剪紙（切り絵）を特集。漢聲雑誌 81 期「論述篇」と 82・83 期「芸術篇（上・下）」の 3 分冊構成。スリップケース（段ボール紙の外函）に収められた 3 分冊の背幅は約 95mm にもおよぶが、各 1 冊ずつ手に取ると、表紙の紙の手触りも良く、ふわっと軽い。ページをめくると、見開きの開きが良く、指先に感じる紙の馴染みも心地良い。82・83 期「芸術篇（上・下）」は、剪紙作家（母親）の作品が、実際の剪紙で使用される紙に近い本文用紙に刷られ、よりダイレクトに剪紙の作品を感じることができるデザインとなっている。

『虎文化・兩千虎圖』 （漢聲雑誌 110・111 期）

発行人＝黄永松，英文漢聲出版，1998

中国で生命の象徴であり、子どもを守る聖獣とも崇められた「虎」をテーマにした特集。漢聲雑誌 110 期「虎文化（論述篇）」と 111 期「兩千虎圖」の 2 分冊構成。「兩千虎圖」では、漢聲が長きに渡り集めてきた民間芸術の中で虎のモチーフのものを 2000 点に渡り収録されている。スリップケース（段ボール紙の外函）には 3 本の虎の爪痕が打ち抜かれ、目を引くデザインとなっている。



『剪花娘子 庫淑蘭』 （漢聲雑誌 99・100 期）

発行人＝黄永松，英文漢聲出版，1997



中国陝西省旬邑県王村で生まれた女性、庫淑蘭の「剪花」と呼ばれる剪紙（切り絵）を集めた作品集。漢聲雑誌 99・100 期、上・下、2 分冊構成。この地方では農業の合間に女性たちが剪紙を作る伝統があるが、庫淑蘭はあるとき、突然崖から転がり落ちて気を失い、正気に戻ると、とりつかれたように素晴らしい神話的な剪紙を作りはじめたという…。2013 年には日本初の「花珠爛漫『中国・庫



『アジアの本・文字・デザイン： 杉浦康平とアジアの仲間たちが語る』 杉浦康平 編著，

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ，2005



グラフィックデザイナーの杉浦康平とアジアを代表するデザイナーらによる対談集。この対談集では黄永松が中国の伝統民間文化を主題とした雑誌『漢聲』の出版活動について深く語っている。